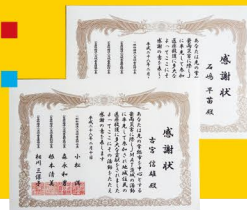




JMATメンバー

左から／石嶋早苗 災害支援ナース、古宮信雄 災害支援ナース
吉武健一郎 医師、服部裕介 職員



JMATのメンバーには、茨城県医師会
から感謝状が贈呈されました。



看護部も大活躍

茨城県看護協会からの要請で看護部も出動。
1病院と4カ所の避難所で延べ24人がボランティアで
支援活動を行い、後日、感謝状が贈られました。



古宮看護師

災害支援ナースとして被災地に行くのは、中越地震、東日本大震災に次いで今回で3回目でしたが、チームで活動したのは今回が初めての体験です。しかも同じ職場の仲間と一緒にしたので、とても心強かったですね。診察から薬の処方まで医療がその場で完結できるのは、チームだからこそ。避難所の方々にとっても喜ばしいことだったと思います。



石嶋看護師

今回は水害の後ということで、泥まみれの方も多くいらっしゃいました。避難所も恵まれた環境とはいえ、やるべきことはやりましたが、他にもっと何かできたのではないかとの思いもあります。災害支援ナースとして、これからも定期的な研修を欠かさず知識を自分のものにして、また要請があった時には対応できるようにしておきたいです。



服部職員

2年前にJMATの研修に参加したことがあり、今回のメンバーに選ばれました。被災地に行くのは初めての経験で、驚きの連続でした。飲料水にも不自由するような、当たり前のことが当たり前にできない状況は、被災者にとって大きなストレスです。災害への備えの重要性を再認識しました。



臼倉由貴枝
看護師

不衛生で隙間風も吹き込む環境の中、赤ちゃんから高齢者まで100人弱の被災者が寝泊まりされている避難所を2人で巡回しました。なかには、いつもの薬が流されたために持病が悪化する人もいましたが、多くの方は体調不良を訴えるというよりも、浸水の体験を話したいご様子で、話すことで気が休まるようでした。



小沢真生
看護師

水海道西部病院に昼間の病棟勤務のボランティアに行きました。その病院は建物こそ被災しませんが、自宅や家族が被災した職員が多く、出勤できなかつたり夜勤ができなかつたりしてマンパワーが不足した状態のところには患者さんが集中するため、職員の疲弊が深刻な問題でした。災害時には、周辺からの支援がいかに重要であるかがよく分かりました。

秋葉はつい看護部長より

以前から災害看護の研修会には多くの看護師が参加しており、今回それが役立ったわけですが、身近で災害が起こったことで研修の必要性・重要性をあらためて感じました。これからも、どんどん参加を促して災害看護に力を入れていきたいと思っています。